

沼須人形芝居稽古場「薪水書窓庵」



裏山の竹林を取り込む半屋外の土間
多様な用途に変化する多目的な余白空間

土間



■ 計画の背景

群馬県沼田市沼須町に、安政年間（1854~60年）の時代から脈々と地域の農民達によって伝えられて来た伝統文楽「沼須人形芝居あけぼの座」のための新しい稽古場の計画である。以前芝居の稽古は、周辺の農家や公民館などを借りて行われており、転々と稽古場所を見つける必要があった。練習の度に舞台の解体・設置を行うなど、高齢の座員への負担も大きかった。また重要文化財である人形や舞台道具の保存環境も悪かった。それらの問題を開拓すべく、9代目座長が陣頭指揮を取り、座員や多くの支援者たちの寄付を受けながら、大きな志を持った計画が始まった。

同時期に沼田市中心部に大正時代から建っていた、築80年の沼田城下町の面影を残した商家が、道路拡張計画によって取り壊されることが決まった。その話を聞いた座長が、その建物を新しい敷地に稽古場として再生できないかと考えた。しかしその譲り受けことになった古材の状態は移築できるほど良くなく、また再利用できる状態の良い古材も限られていた。そこで私たちは、状態の良い古材の積極的な再利用とともに、伝統的な商家のプロポーションや納まりを残しつつ、中身の空間を人形芝居稽古場にふさわしく作り直し、同時に地域に寄与する開かれた文化的施設となるような建築を提案した。また、稽古場としてだけでなく、ここで公演も行える小さな劇場として計画した。

敷地は沼田台地の裾野に広がる河岸段丘の竹林を北側に背負い、南側には沼須の家々や畠が広がり遠くの山脈まで見渡せる、すばらしいロケーションである。この美しい環境を壊さずに、また座員や利用者が豊かな自然や風景を享受できる建築にしたいと考えた。

■ 余白の土間

非常に限られた予算であることから内部の部屋数や面積、設備を必要最小限に押さえた。その無駄を削ぎ落とした本質的な機能に、余白としての「土間」を付加した。日本民家の伝統的な土間空間は、様々に用途が変わる多機能性と、接続する内部空間の向上性を持っている。この計画の土間空間は、公演時には客席として、稽古時には座員の休憩所や打合せの場、芝居道具などの手入れや、製作の作業場として、またイベント時にはバーベキューや食事の場として、朝夕は地域のご老人たちが散歩の途中に気軽に休憩できる東屋として、など決まった機能を持たず柔軟に用途を変える空間である。また内部の稽古場と土間を一体的に使えるように、大きな開口で隣接させることで相乗的に空間の豊かさと利用形態の幅を広げている。

■ 回廊

2階には大量の書籍を保管する書庫を兼ねた「回廊」を計画した。立体的な収蔵により歴史的に貴重な書籍を展示品として公開するとともに、土間上部の屋外にも連続させ、裏の竹林や遠くの山々、畠など地域のすばらしい風景を楽しめるスペースとした。また内向きには舞台を立体的に観賞できる客席としての機能も併せ持たせた。

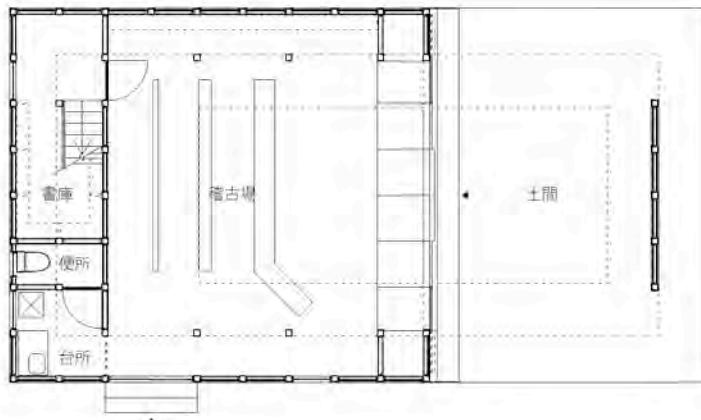
■ 構造的リング

決まったサイズの舞台を入れる空間を確保するため、木造としては比較的大きな内部空間が求められた。また外部の土間と稽古場を一体的な空間とするため、室内外を構造的に一つの空間として解く必要があった。そのことから木造大空間で弱まる水平剛性を得るために、2枚の構造的に固まつた水平のリングを作り、そのリングを回廊と軒部分に廻することで建物が受ける水平負荷に耐える構造とした。そのリングと屋根を支える構造として幅2間の壁を長手方向の端に1,2階貫通させて計画している。

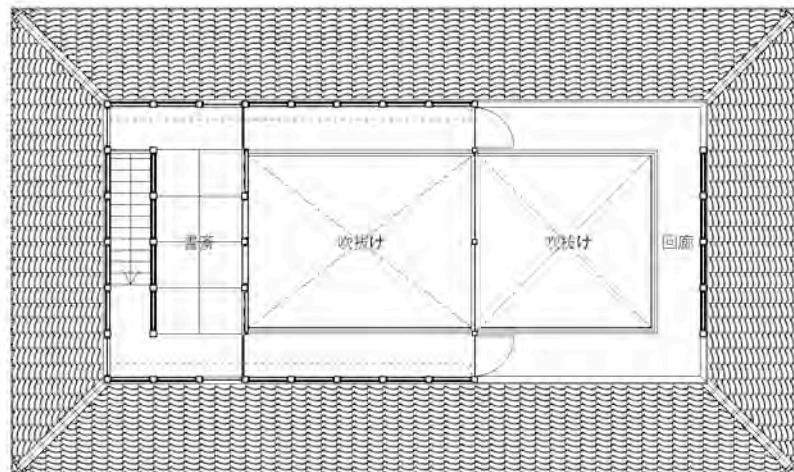
機能的な余白を多く持つ建築は、空間が抑制する規則的で規定的な行動から利用者を開放するのではないか。利用する人々の行動を影で支えながら、新たな活動や創造を促す豊かな建築ができたのではないかと考えている。

鈴木竜太 + 田中匡美／Sango Design

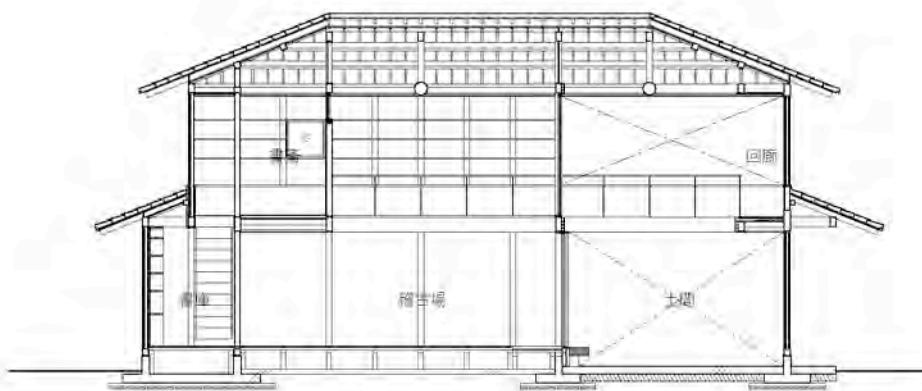




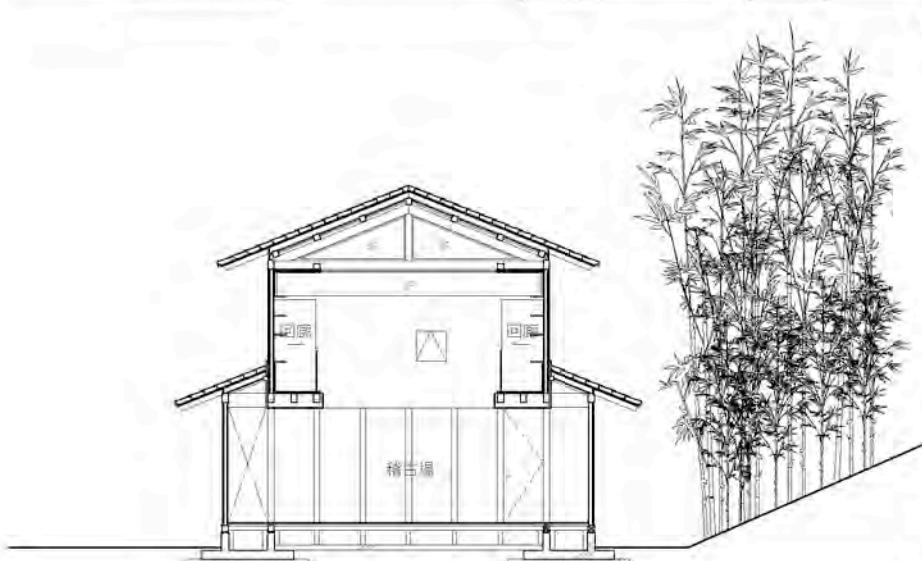
1階平面図 S=1:150



2階平面図 S=1:150



長手断面図 S=1:150



短手断面図 S=1:150



河岸段丘の竹林を背負う敷地

外観写真



下屋の古瓦と上屋の新瓦

外観写真



瓦屋根を軽く見せる深い軒の出

土間入口



横にも縦にも抜ける土間空間

土間



地域の畠や遠くの山々を見渡せる回廊

回廊と土間



大開口により一體的な稽古場と土間空間

稽古場と土間



吹抜け



書斎

所在地：群馬県沼田市沼須町

主要用途：人形芝居稽古場

建主：個人

設計・監理

建築：サンゴデザイン

担当／鈴木竜太 田中匡美 乙坂孝泰
(※元所属員)

構造：桑子建築設計事務所

担当／桑子亮

構造助言：増田一真

施工

建築：サンボウ 住宅事業部

担当／平井克明 井上恭二

大工：山田春雄

規模

敷地面積：558.94 m²

建築面積：99.37 m²

延床面積：134.15 m²

建蔽率：17.77% (許容：70%)

容積率：24.00% (許容：200%)

階数：地上 2 階

寸法

最高高：7,180mm

軒高：5,700mm

階高：1 階 3,100mm / 2 階 2,600mm

天井高：稽古場 6,300mm / 回廊 2,400mm

敷地条件

構造

主体構造：木造

杭・基礎：布基礎

設備

空調：石油ストーブ

給水：水道直結方式

給湯：電気式瞬間湯沸器

排水：浄化槽方式

電気：低圧受電方式

工程

設計期間：2009年7月～2011年11月

工事期間：2011年11月～2012年6月

外部仕上げ

屋根：瓦葺き（上屋根） 古瓦葺き（下屋根）

外壁：漆喰塗り左官仕上げ

開口部：アルミサッシ

外構：自然石積み（千枚岩）

内部仕上げ

床：桧無垢フローリング 豊

壁：漆喰塗り左官仕上げ

天井：小屋組表し PB t=12.5 のうえ AEP

一級建築士事務所 サンゴデザイン

〒136-0071 東京都江東区亀戸 6-57-7 北斗スター M304

TEL/FAX : 03-5609-0395 MOBILE : 090-8776-2918

E-MAIL : suzuki@sangodesign.com

HP : www.sangodesign.com BLOG : <http://blog.sangodesign.com>



鈴木竜太（すずき・りゅうた）

1979年 東京都生まれ

2001年 東京日建工科専門学校 卒業

2003年 武蔵野美術大学 造形学部建築学科 卒業

2005年 ロンドン大学バートレット校 MArch 修了

2006-2010 EDH 遠藤設計室

2010年 SangoDesign 共同設立

田中匡美（たなか・まさみ）

1974年 群馬県生まれ

2003年 武蔵野美術大学 造形学部建築学科 卒業

2003-2007年 保坂陽一郎建築研究所

2007-2010年 佐藤尚巳建築研究所

2010年 SangoDesign 共同設立